

国際サーカス村通信	VOL.16 N004	2012年 3月 2日 (金)
		文責 西田 敬一
編集NPO 法人国際サーカス村協会	〒376-0303 群馬県みどり市東町座間 41-1	
Tel0277-70-5010 Fax0277-97-3688 mura@circus-mura.net http://www.circus-mura.net		

## ● “旅する道化師と大道芸人たち”

放射能汚染によるサーカス学校休校。しかしサーカス村の活動を止めるわけにはいかない。そんな思いから、表記の活動を行いたいと宣言し、4、5月、九州・四国へ“さすらいの旅”を計画。この計画をなんとか実施しようと、ふくろうじ『出口あり』にくわえて、彼を含めた高村篤、田中健太両君の大道芸の公演ができないか、友人に加えて友達の友達“大作戦”を展開し、あちこちに連絡を入れた、ここ2ヶ月半。しかし、思うようには公演場所が決まらず、苦戦苦闘しつつも、なんとか別紙スケジュールを組んでいる現在。

快く公演の準備をしてくださっている方、宿舎を提供してくださる方、なんともありがたく、感謝申し上げる次第です。

しかし、まだまだ空き日もあり、なんとか公演できる日を一日でも増やしたいので、ぜひ、皆様ご協力のほど、よろしくお願ひします。

\*

ところで、サーカス学校は、まだ、市による除染は行なわれていないが、この4月以降、除染するとのこと。2月15日、ぼくが放射線量を測定したところ、体育館の屋根の雨水を受ける樋の下の排水溝では、毎時1.5マイクロシーベルトと、昨年12月の約倍の数字に針が振れて、暗澹たる気持ちになってしまった。果たして除染しても一時的なもので、周囲が山だったりすると、雨が降るたびに平地に流れてくるとのこと、放射線量が減ることは期待できないという話しを聞くと、今後の対策はどうすればいいのか、正直、不安な気持ちを拭い去ることはできない。

放射能汚染を完全に取り去り、東京電力福島第一原発事故以前の状態に戻せなければ、この原発事故の収束宣言などありえないし、人々の気持ちから不安の文字は消えることはない。原発を再稼働すれば、いつ、第二、第三の原発事故がおこらないとは誰も保証できない以上、再稼働を容認することはできないと思うのが、フツーの人間の当たり前の気持ち。経済成長のために電力不足は許されないという人々は、人より金（経済）で、この原発事故で悲惨な目にあっている人々の命、健康、子供たちにたいして、どんな気持ちなのか。正直、その気持ちを推しはかることができない。経済発展が、豊かな階級の人々をより豊かにする一方、貧しい人々がますます路上に投げ出されていくこの国の仕組みを組み替えなければ、何の意味もない。

ぼくらの今回の旅には、旅先での人々との交流が大きなウェイトを占めている。そう、話し合いたいのだ。放射能汚染でサーカス学校を休校にせざるをえないこと。あなたのところが、放射能に汚染され、そこでの活動、生活をどうするか考えなくてはいけなくなったら、どうするか、を。

ぼくらは、なんとかサーカス学校を再開したいと考えているものの、たとえ除染が行われてもそれが完全なものであることが期待できない以上、どのように再開すればいいのか。いまはまったくその道が見えていない。今回の旅で、それが見えてくるかどうか。それもまた予測不可能だ。休校をつづけるにしろ再開するにしろ、ぼくらは、この放射能に汚染された日本列島のなかで生きる道を探らなければならない。だが、少なくとも、原発が稼働し、いつ、第二、第三の原発事故がおこるかもしれないという不安を抱えたままの未来を、原発を推進する人々と共有するつもりはない。ぼくらは、自分たちの未来を、自分たちの手で築いていきたいのである。

## ●人生はサーカス！<sup>カレ キュリユー - シルク ヴィヴァン</sup> Carre Curieux - Cirque Vivant! 4人の青年たち

フランスのヌーヴォー・シルクと呼ばれている、いわゆる新しいサーカスの形態は、表現するためのサーカスとして、世界各地に波及していき、ダンスや演劇など、様々な要素を加えた、ジャンルを超えた多彩な作品を創り出しています。

ある日、私たちは、ベルギーで活動をしている2人の青年、Carre Curieuxのルカとウラジミールから、1枚のDVDを受け取りました。仕事をしたことのあるアーティストに私たちのことを聞き、連絡をしてきたのですが、私たちの世界は、人と人とのつながりで成り立っていることを実感するのは、まさにこういう瞬間です。

DVDの内容は、20分ほどのボールとディアボロの作品でしたが、技術の高さもさることながら、その発想のおもしろさに心をひかれ、2009年の第5回東京国際フル祭に出演してもらいました。その時に、4名で作品を創っているという話を聞きました。やがて、その作品は、2010年のアヴィニョン演劇祭や上海万博で大好評を得、多くの契約を取り付けるにいたりました。4人の個性の豊かさと、サーカスに対する愛情が感じられる作品で、何よりも道具へのアプローチの仕方がおもしろく、時間と労力をかけて創られた作品という印象があり、2011年度に実施ができないか、私たちは検討を始めました。

そして、2012年2月に東京公演の実施がほぼ決まり、準備を進めつつあった頃、3月11日に東日本大震災が起きました。海外のアーティストたちから、たくさんのメールをもらいましたが、Carre Curieuxもいっしょにメールをくれました。多くの舞台公演、イベントがキャンセルになり、私たちも、果たして実施ができるのかどうか、特に原発の事故を考えると、彼らは日本に來たいと思っているのかどうか、確信はもてませんでした。しかし、3月末に打診したところ、彼らのほうでも、日本公演がなくなるかもしれないと危惧していたようで、「自分たちの公演を開催するというエネルギーを持ち続けてくれてありがとう！日本の観客に楽しんでもらえるよう、ベストを尽くします。」という彼ららしい返事がきました。それからの1年は、本当にあっという間でした。震災後で、様々なことがあったせいもありますが、これまでで最も短い1年だったように感じています。

一行は1月30日来日…のはずが、ベルギーを出発する前日に連絡があり、ベルギーでゼネストが始まるとのこと。予定通り飛行機が飛ぶかどうかも分からず、最悪ロンドンまで列車で行き、ロンドンから空路で成田へというルートも想定しましたが、そうすると来日は1日ずれこむことになり、舞台の仕込みに影響がでてきます。1日ずれこんだ場合の予定もたてましたが、最終的に飛行機は無事にブリュッセルを出発し、予定通りの来日となりました。

ルカ（ボールジャグリング）とウラジミール（ディアボロ）とは、2009年以来3年ぶりの再会でしたが、ルカは髪があり（3年前はスキンヘッドでした）、ベジタリアンになっていました。体調不良から野菜だけを食べていたところ、以前よりも体調がよいことに気付き、以降ベジタリアンになったそうです。ウラジミールは、3年前は英語がまったくできませんでしたので、直接話をするにはなかったのですが、恋人がアメリカとフランスのハーフということもあり、英語が話せるようになって



ていたのには、驚きました。直接話をしないと、分からないことはたくさんあり、今回は様々な話でしたが（日本人の死生観ってどういうもの？と聞かれたときには、面喰いました）、待ち合わせが一番遅く来る場所は、以前と変わっていませんでした…。



ケンゾー（一輪車）とヒェルト（空中シフォン）とは初対面でしたが、ふたりとも礼儀正しく気さくな青年です。ケンゾーは日本とフランスのハーフで、京都からはお祖父様から叔父様、叔母様、従姉妹まで東京公演にかけつけてくれ、ケンゾーにとっては、家族に今の自分を見せる大切な機会となり、それをとても喜んでいました。ヒェルトの専門技は空中シフォンですが、サーカス学校時代から、ケンゾーとふたり、チャイニーズポールも練習していたそうです。

4人が出会ったブリュッセルのサーカス学校は公立で、学費が非常に安いのだそうです。今は経営が変わり、高くなりつつあるそうですが。サーカス学校では、ダンスや演劇の授業などもあり、それが作品を創るうえで、少なからず影響を与えていることは否めません。サーカス技の訓練と追求はもちろんですが、それ以外の身体訓練をすることで、作品を創る上での幅は広がりをもたらします。

4人でひとつの作品を創ることは、意見の対立などもあり、さぞかし大変だったのではと思いましたが、4人の波長がよくあっているせいか、そうでもなかったそうですが、やりたいことが多すぎて、それで演出家をたて、一緒に調整をしたということです。舞台上の彼らの関係やキャラクターは、まさに普段の彼らそのものなのです。



今回の作品は、音楽も非常に魅力的ですが、作曲と演奏は、Mark DEHOUX と Sofiane REMADNA。マークはジャグラーでもあり、何度か一緒に仕事をしたこともあります。お互いによく知っていることもあり、最後の一輪車の音楽以外は、すべて彼の好きなように作ってもらったそうです。音楽は、CDにしたら売れただろうにと思いましたが、とにかく日々、様々なことをこなしていくことで精いっぱい、それに付随するビジネス、CDを作って売るとか、パンフレットを作るとか、そういうところまでは、とても考えられないのだそうです。ただ、助成金がもらえるかもしれないので、もらえたら、専属のマネージャーを雇おうと思っていると言っていました。

東京公演、埼玉公演と終えて、彼らはいったん京都に行き、そこからばらばらになり、鹿児島に行ったり、高野山に行ったりと、それぞれの短い休暇を過ごし、帰国の途につきました。人生はサーカス！サーカス万歳！（大野洋子）



カレ キュリユー - シルク ヴィヴァン  
●Carre Curieux - Cirque Vivant! 感想

山林を切り開いて造成した住宅地の一角に、猫の額ほどの公園があり、かれこれ二十年ほど前になるでしょうか、自分の子どもがその公園で友だちたちと遊んでいるのをよく眺めていました。木の上、といっても地面からたかだか2mほどの高さにダンボールをくくりつけて、座れるようにした場所、それが彼らの「秘密基地」です。秘密基地にほど近い斜面の林の中にくつつかの「支所」があるようで、子どもたちがそこと「秘密基地」との間を頻繁に行き来しています。秘密基地に飽きると、子どもたちは公園に落ちている誰かが忘れたであろうボールや、枯れた枝や、その他空き缶などのガラクタ類を見つけては、自分たちで工夫して遊びを作って楽しんでいます。

そんな風景が今回の公演とだぶりました。

舞台上には秘密基地も支所（ソファ）もあったし、ボールなどの「物」を持ち込んで遊びを創作して、空間を自由奔放に楽しげに跳ね回る仲良し4人組がそこにいました。ちょっとした物と自由な空間があれば、人は存分に楽しめるものなのでしょうね。本来は。

シンプルな舞台で繰り広げられるパフォーマンスは、開放される楽しさや喜びを存分に感じさせてくれました。と同時に仲間っていいなあと、今考えるとどうしようもなくくだらない遊びだけれども、夢中になって一緒に遊んだ昔の友だちたちを懐かしく思い出しました。

エンディングも印象的でした。

子供たちは少しだけ成長すると公園には満足できずに、ここにはないもっと楽しい場所を探しに（自転車なんかを使って）公園から新たな冒険の旅に出ます。仲間と一緒に。

エンディングには、仲良し4人組それぞれが人生の新たなステップに上る姿を感じ取りました。ところで、技術的には目新しいものが多々あり、特にポールと（水平軌道の演技のみという）ディアボロには驚きました。<チャン助>

# 最新サーカス公演情報

## ★木下大サーカス

- 大阪花博公演 2012年3月10日(土)～6月11日(月)
- 休演日;毎週木曜日と3/14(水)、4/11(水)、5/2(水)、5/9(水)。但し5/3(木)は開演。
- 電話;大阪花博公演事務局 06-6374-0009(3/5まで)
- 会場;花博鶴見緑地(地下鉄鶴見緑地駅前) 特設会場

## ★ポップサーカス

- 堺公演 2012年3月3日(土)～5月6日(日) ●休演日;毎週水曜日
- 会場;堺市大浜公園北側特設大テント会場 ●電話;堺公演事務局 072-282-7110

## ★クラウン ドリームサーカス



クラウンのコミカルな魅力と、華麗な空中技やスリリングなアクロバットが融合した、夢のサーカスをぜひお楽しみください。

- 野外民族博物館リトルワールド 2012年3月17日(土)～6月24日(日)  
土日祝 11:00/13:00/15:00、平日 11:30/14:00(各回 40分)
- 休演日;毎週火曜日。但し3/20(火・祝)は公演あり、3/21(水)は休演。
- 電話;0568-62-5611
- 会場;野外民族博物館リトルワールド 野外ホール サーカスは入館料のみでご覧いただけます。

# その他公演情報

## ★クラウン・ショー 長いきな女達

- 2011年12月に初演を行った女性3名によるクラウン・ショー第二弾。
- 出演者;恩田香、西荻円香、川久保州子
- 2012年3月23日(金)19:30、24日(土)14:00/19:30、25日(日)14:00/18:30
- 会場;RAFT(東京・中野) ■お問い合わせ;080-5008-2567



## ★ながめくらしつ新作公演 起きないカラダ眠らないアタマ

- 2008年6月舞台「堀の外のジャグリング」から活動を始める。目黒陽介の間と光を操るジャグリングの世界に小春が音楽を重ねてゆく。初めて出会うような何処かで見つめたような思い出と現実の境を行き来する。
- 2012年3月23日(金)19:30、24日(土)14:00/18:00、25日(日)15:00 開演
- 会場;現代座ホール(JR中央線「東小金井」駅)
- お問い合わせ・チケット予約;090-8597-7552(奥村)

★バーバラ村田のよるペナイト vol.4 ～春の嵐と悪童編～

■出演者: バーバラ村田、日比谷カタン、目黒陽介、ピカソ(だいち+ユキンコアキラ)、遊侠サーカス(バーバラ村田、渦・マキ、マチルダ、あやちクローデル、イーガル)

■2012年4月1日(日)18:00 開演 ■会場; 吉祥寺 STAR PINE'S CAFÉ TEL.0422-23-2251

■チケット; スタパインズカフェ店頭もしくは HP にて販売 <http://www.mandala.gr.jp/spc.html>

★山本光洋ソロライブ『かかしになるために⑦』

■—2012年、連続公演で送るソロライブ第7弾—

このシリーズも7年目。「私の後ろにも少しは道ができているだろうか」目の前に広がる砂漠のような空間。

この7年で出会った人を思いつつ これから出会う人を思いつつ やっぱり一つ一つ作品を置きながら進んでいこうと思っています。

■2012年4月6日(金)19:30、7日(土)15:00/19:30 開演

■会場; Live Space Plan-B (中野富士見町)

■お問い合わせ・ご予約; 山本光洋 Office 03-3951-1999

※各回とも1か月前から予約開始、公演3日前まで受付。それ以降は当日券のお取り扱いとなります。



★下山和大プロデュース公演『Dream On Unicycle』

■全日本一輪車競技大会において総合優勝を含む数々のタイトルを受賞し、現役を退き指導をしながらも、シルク・ドゥ・ソレイユを始め、世界各地でのパフォーマンス活動を行っている下山和大氏が、日本全国の一輪車クラブを一同に会し、技術だけでなく、表現する一輪車の作品の数々を披露する。

■2012年4月8日(日)13:00 開演

■会場; 川崎市教育文化会館 ■チケット: S席 2,000円 A席 1,500円

■お問い合わせ・ご予約; メール [unicycledream@gmail.com](mailto:unicycledream@gmail.com)

■詳細; ホームページ <http://dou.daa.jp/>

